

IPS DOC 3345 Annex 16.2

檢察側文書

第三三四五号 附原書

第二号

(ライオン LAYTON 宣撫供進書)

一九四一年十月二十七日 附

太平洋艦隊情報

第四一四一号 参照

合衆国太平洋艦隊及太平洋方面

司令長官司令部

左記より成る添附文書

即<sup>4</sup>

一九四一年十月二十七日 附 太平洋艦隊司令

長官、秘密書簡一綴、番号A 8 / F //

(25) (連番番号。一九五四号)

首題、太平洋艦隊情報 第四一四一

号、字及右三対、添附書 (A)

合衆国太平洋艦隊及太平洋方面司

令長官、公文書綴中、文書、眞實且

正確ナル字眞字ニナルコトヲ證明ス。

P1.

44 P 2

IPS Doc 3345 Annex No. 2

合衆国太平洋艦隊及太平洋方面  
司令长官、指示書

R. E. Keeton (Keeton) 署名

(印章)

海軍省

合衆国太平洋艦隊司令长官



IPS Doc 3345 Annex No. 2

太平洋艦隊司令長官綴番号A8/F1/25)  
連番番号01954号

合衆国太平洋艦隊

旗艦 U.S.S. PENNSYLVANIA (PENNSYLVANIA)

布哇地巴 真珠湾

一九四一年十月二十日

合衆国太平洋艦隊司令長官 発

太平洋艦隊宛

首題 太平洋艦隊情報

第四一四号

添附書 (A) 首題情報

一、添附書 (A) の情報ト一同封発

送ス

二、之ニ含ユル情報ノ五所ト情報

ハ同着其性質上 秘密ヲ要スル

ニ故ニ右ニ対スル 秘密性ヲ細心保

存スベキト最モ肝要ナリ。 添附書

三、

海軍情報部ヨリ取得セル本

情報ハ合衆国太平洋艦隊司令

長官ヨリ複製サレタシメナリ。 李普

1PS Doc 3345 Annex 10.2

追加工二対る請来、海軍情報部  
宛トス。只司令長官宛トス。陸ト。  
四追加工、作製ス。カミデ。下。外情  
報ハ現下、国家非常時至急中。情報  
及参考用(且今後、補遺又修正  
タメトシテ付存置ス。キモ、又

指示ヨリ

P. C. クローリー (CROSLY) 署名

本通信、秘密報

秘密報解除ニ変更

典據

連番号ナ五三七三〇三

口附

一九四五年十月十日

配布先 ナンバ一四

リスト 1. 4-23. P. X.

太平洋艦隊 AI.

西細重艦隊 AI.

下記(各意面)

FATU. NTS. NC4. ND11-ND14

NB49. Rdo. & Snd. Lab.

PH



9. P. S. Doc No. 33345-Annex 2

情報才四五一四二号

\* \* \* \* \*

(A) 日本艦隊、編制 一九四二年十月三十日(一〇五七四)

下記、海軍情報部 Op-16-F-2 一連番号才三七一四号  
修正、本首題、件ニ関スル前、報告ニ優先シ之ニ代フルモ、  
デアル。

ソ、主要ナル改変ハ艦隊、数ヲ更ニ増加シタトニアル。  
之、航空母艦及ヒ水上機母艦ヲ別箇、部隊ニ再編成  
スルコトト印度支那ヘノ南進ニ因連シテ特別機動部隊  
ヲ編成シスコトトニ由来スル。此、再編成ハ左ニ述ベルセ  
種々、艦隊内部ニ於ケル者シイ専門化ヲモクラン。

\* \* \* \* \*

日本海軍ハ、今未曽有ニ多数現役艦艇ヲ擁スル。更ニ  
多数、商船ヲ海軍、手ニ移サシ、商船ト海軍、補助艦  
艇、別、日、日ト消滅シツアル。奄王統治諸島ニ於ケル  
基地部隊ト海軍改良滿隊ニ亦戦争能ハルヲ、エニ立ッ  
海軍力ヲ非常ニ増強シタ。

連合艦隊及ヒ一艦隊

司令長官(海軍大將) 山本五十六

旗艦

長門

95-

S.P.S.D. No. 3345-Annex 2

P. 6

# 才一艦隊

米 米 米 米 米

(B) 委任統治諸島ニ於ケル日本軍、部隊及ニ施設

1. 才四艦隊、之ハ委任統治領艦隊(MANDATE FLEET)ト稱シ得ルガ海上及ニ海岸ニ於ケル海軍、諸活動更ニ委任統治諸島ニ於ケル陸軍警備隊、諸部隊ヲ統轄スルヲ思ハレル。海上部隊ガ委任統治地域ニシテ統轄權ヲ及ボスナク、横須賀鎮守府ガ直接ニ貯蔵品、資材及ニ食糧供給、責ニ任ズル。トラス、補給品及ニ軍需物品、本部デアリ、才四艦隊、最モ重要ニ作戦基地トナツタ。

2. 従来全委任統治諸島、警備ハ、警備部隊ノ大部ガ海軍所備部隊(米國、海兵隊ニ相当スル「特別陸戦隊」)デアリテ、今更ニ「トラス」及ニ「マルト」ニ任ルト信ジラル。全警備兵力ハ約一五ノト推定サレル。之ニ加エテ又々、島嶼ニ施設部隊ガ開発作業ニ従事シテイル。之ニ協力スルニ海軍建築部隊、海軍兵務專門家、軍医、海軍工員、イル海軍工廠、ソレニ技術者ガアル。海軍無線電信所、通信網、非常ニ拡大サレ、戦略的要所、測候所及ニ高周波方位探知機ガ設置サレ、航空施設ハ、範圍及ニ数英



9.P.S.Doc No. 3345-Annex 2

＝増強ヲシ、海岸砲台が重要セテ珊瑚礁、戰略的  
島嶼＝据エラレタ。

以下次頁。

3. 本任統治諸島、軍需に施設、補充及び軍国主義に促進、決定、一九四〇年後半に於て、恐らく三国同盟、調印と同時に進行したることを明白である。海軍補助艦艇、中、貨物船、貨物—旅客船(又商船)、本任統治諸島に於て移動、一九四〇年十二月に始り、運輸に従事する艦艇が二十余隻あること、規模及数、増加し、尚、本任統治区域に於て平均数、四十隻である。

4. 本任統治諸島に於て軍需品、糧食、資材、糧秣供給任務、横須賀鎮守府に属し、本任統治諸島第一海軍区(本部—横須賀)に於て、任務、通常横須賀、管轄下に於て、本任統治諸島に於て施設、軍需品、兵備品、糧食、本部に於て集中する。

5. 第三、第四、第五及第六根拠地隊司令官、第四艦隊司令官、部下、司令官である。彼等に指定する旗艦及び本部或は行政部に有し、後者、隊或は旗艦、移動、拘らず原基地に在る。各根拠地隊、防備部隊を包含し、防備部隊、分遣隊に、一般区域、遠隔、諸島に駐屯する。第一根拠地隊に四隻、巨号潜水艦が配属する。

6. 「サイパン」、「マニラ」、「アロニエ」、「コラ」、「ポナペ」及び「マル」上、「エゼリ」地帯に於て、空軍、活動が相当に顯著なものである。防備部隊、原基地、航空機、活動、間、緊密に協同が著しく、サイパン地帯に接近する外国汽船に航空機、監視、哨戒機、爆撃機及び戦闘機を厳



J.P.S. Doc No. 3345-Annex 2

密に検索を受け、確かに「オレンジ」(ORANG) / 記者註暗号  
 アルトロノ陸上重爆撃機及び哨戒機が「ギンバート」諸島  
 (「タラウ」(TARAWA)「ブタリタリ」(BUTARITARI)及び「ベル」(BERU))に  
 空軍偵察飛行シタ。

又、本任統治諸島ニ於ケル資材、人員及び設備、配置、  
 表ニ表示サレテイル之ハ不完全ナトガ容認サレテ居リ、且不正  
 確ヲ免ルナシカモ知ルナシカ、本任ニ関スル最新最良情報ヲ  
 示スモ、ア、  
 表ニ記載セラルテイルソレニ加フル多数ノ潜在  
 的基地ガ存スルソレハ主トシテ、自然ニ保護サレテ環境、礁湖  
 等、非常ニ基地トシテ使用サレルカモ知ルズ、或ハ第二次ニ開闢サ  
 ルトニ指定サレルカモ知ルナシモ、ア、

8. 最近情報(一九四二年十二月二十五日迄)ニ依ルニ本任統治  
 諸島ニ於ケル現在空軍配置状況(永久的配置ト云フコ  
 ハ寧ロ一時的戰畧的配備ト考ヘラレル)次ノ如シ。

命令	位置	所属部隊
第三五 Airtron	「ミミル」(ミミル)	水上機母艦「カモイ」
	「ミミル」(ミミル)	水上機母艦「カモイ」
		舊干蔵航空隊
		舊磯浜航空隊

19  
 第二海軍航空隊 「ミミル」  
 第六海軍航空隊 「ミミル」  
 第七海軍航空隊 トリック  
 第八海軍航空隊 タイバン

J.P.S Doc No. 3345 - Annex 2

第十九海軍航空隊

「イミエ」諸島(タルト環礁)

海軍航空基地(及航空隊?) ウネツセ

海軍航空基地(及航空隊?) ゴゴリン

?... 海軍航空隊

トミツク

之等海軍航空隊、正確に構成に判明シナイ。又本任  
統治諸島ニ於テ航空機總兵力ノ概數ハ時ヨリ大キク  
変化ガアル。即チ六十二乃至二六八機デアル。

情報第四五―四一 最終頁。

P10







東加リン群島	本部	トワツ島	ボナペ	ロゲラ	エニウェツ	リン
ウケル (WOLEAI)	ANANGAI	X	X			
モルトック (MORTLOCK)			X	1/4		X
ランドレック (LANDRECK)			X	1/4		X
カピナマラン (KAPINAMARANGI)			X	1/4	X	
ナムニト (NAMNITO)	OLOL		X	1/4		X
プルワフ (PULUWAT)			X	1/4	X	
ドゥブル (DOUBLON)		X	(X)	1/4	X	X
ト (TOL)				X		1/4
ランガ (LANGAR)		X	X	X		X
ポナペ (PONAPE)		X	(X)	1/4	X	X
ピゲラ (PINGELAP)			X	1/4		
クサエ (KUSAIE)			X	1/4	(R)	X
エニアド (ENIADOK)		X			X	X
ロンゲラ (RONGELAP)		X	X			X
メリン (MERLIN)		X			X	X
エニウェツ (ENIWECK)		X	X	1/4	(R)	X
ウゲラ (UJELANG)		X	X	1/4		X
エニ (ENI)		X				

西カリン群島	パオオ本部	カリン本部	非委任艦船
ウルチイ (ULITTHY)	X	(R)	
アライ (FAIS)	X	(R)	
ソロ (SOROL)	X	(R)	
ヤフ (YA?)	X	(R)	
コロ (KOROR)	(X) X	(R)	
アラケエシ (ARAKEESHY)	X	(R)	
バキ (BAKITHUAP)	X	(R)	
ペレリ (PELELI)	X	(R)	
ヘン (HE-EN REEF)	X	(R)	
トビ (TOBI)	X	(R)	
パン (PAGAN)	X	(R)	
ティン (TINIAN)	X	(R)	
ロータ (ROTA)	X	(R)	
マルクス (MARCUS)	X	(R)	
又島	X	(R)	
母島	X	(R)	
パラセ (PARCE VELA)	X	(R)	
行政部 / HQ-D			
海軍無線電信 / HF/DF-D			
海軍陸揚部隊 HQ/4-初等海防隊本部			
青陸揚			
水上機施設			
航空基地-B 文=航空隊本部--S/S			
航空隊			
土木部			
建設部隊			
通信工廠			
兵務室(門家)			
海岸砲台-(S) 高射砲台-(A)	S/A	S/A	
見張台 管理部			
監視所及小測候所	X	X	
軍需部	X	X	
工計科	X	X	
軍事訓練司令部			
陸軍部後援教	3000	3000	
艦隊及船舶			
潜水艦基他			